ミス・コンテストに象徴される女性への人権侵害

—堺市女性団体協議会のミスコン反対運動から—

山本（山口）典子

日本大学大学院総合社会情報研究科

Violation of Human Rights of Women as Represented in Beauty Pageant

—Protest against Beauty Pageant by Sakai Women's Organization—

Yamamoto (Yamaguchi) Noriko

Nihon University, Graduate School of Social and Cultural Studies

The International Garden and Greenery Exposition was held at Tsurumi Greenery in Osaka between April 1 and September 30, 1990. During this last exposition of the twentieth century in Japan, Asahi Broadcasting Corporation organized “Miss Flower Queen Pageant EXPO’90”. Sakai Women’s Organization considered beauty pageant, competitive exhibition of women’s beauty, as an act of violating human rights of women and ran a protest campaign. We advocated human rights of women and challenged Japanese society of discriminatory nature of beauty pageants. The campaign evoked controversy throughout Japan. The organization also conducted a questionnaire survey on the beauty pageant in 3382 cities in Japan.

This paper reviews the situation including the survey conducted 27 years ago as well as development of the situation up to now. The author views that the state of violation of women’s rights represented in beauty pageant is one of the critical factors that have made Japan maintained its ranking of women’s status at 111th out of 144 countries of the world.

1.はじめに

1990年。大阪では今世紀最後の博覧会と言われる「国際花と緑の博覧会¹」（以下、「花博」という。）が、かつて1970年の万国博覧会が開催された鶴見緑地で開催されることとなっていた。国を挙げての博覧会は、バブル経済²の最中でもあり、東京一極集中で、日本の副都心である大阪の景気との格差が開く中、経済の活性化や自然や環境にやさしいメッセー

ジの発信という見地からも歓迎されている大イベントであった。

しかし、前年の6月7日の新聞報道の「ミスはお口もお上手」という見出しの記事で、この花博において、朝日放送主催の「ミス・フラワーQueenページェント EXPO’90」が開催されるとあった。

ここから堺市女性団体協議会³の抗議運動が始まった。

いわゆる、ミス・コンテストについては、当時は日本全国津々浦々で町おこし、村おこしとして行政

¹ 1990年4月1日～9月30日に開催された国際博覧会。「花と緑と人間生活のかかわりをとらえ 21世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創造をめざす」をテーマに開催された。

² 投機的要因によって実体経済からかけ離れた資産価格が生み出される経済状態。日本では特に1986年代後半から1990年代初頭にかけての好況期をさす。

³ 堺市女性団体協議会は1948年堺市内の女性たちによる小規模団体で活動を開始。1948年『堺市婦人団体連絡協議会』となり、1986年「堺市女性団体協議会」に改称した。

や商工会などが主催で開催されたり、各地の名産品のキャンペーン・ガールとして、また、大学の文化祭や神社の巫女さんのアルバイトを選ぶためなどにも、あるいは総会屋が新卒の資金稼ぎとして開催するなど、巷に当たり前のようにあふれるイベントであった。

しかし、堺市では、その11年前、1979年に堺市で開催されてきた「堺まつり⁴の女王コンテスト」が、堺市女性団体協議会の当時の委員長であった山口彩子⁵の抗議によって中止されていた。山口は、それまで自らもそのコンテストの審査員をしていたが、他の男性審査員の審査中のコメントや会話、出場者である若い女性たちが水着を着せられ、寒々としながら出番を待つときの表情にたじろぎ、強い違和感と不快感を覚えたと記している。その後山口は、違和感と不快感を学術的に研究し、このイベントが明らかに女性差別であることを説明する。

ミス・コンテストの女性差別性について堺市では、堺市議会においても議論が深まり、中止されている。時あたかも国際婦人年⁶の機運が高まり、わが国における女子差別撤廃条約⁷の批准が求められている時期であった。

筆者自身が、当時、堺市女性団体協議会の事務局長として花博の「ミス・フラワーQueenページェント EXPO'90」について担当した。

本稿においては、ミス・コンテストがなぜ女性への人権侵害なのかを分析し、さらに最近また復活し

始めたミス・コンテストの分析も含めて、国際社会が目標としているジェンダー平等社会の実現のためのSDGs⁸と照合する。さらにそのことによって、「女性の活躍推進」を謳うわが国が、世界144か国中、女性の地位が111位という先進国最低位に位置する理由との関連性を見出していく。

2. ミス・コンテストとは

2.1 ミス・コンテストの概要

ミス・コンテストとは、その名の通り、未婚の女性の容姿を品評し、ランク付けを行い最高位に選ばれた女性を「女王」と格付けする。米国で1920年代に始まったとされ、日本で最初に一般子女の美人コンテストとして行われたのは、明治41年2月28日。米紙「ヘラルド・レビュー⁹」が募集したミス・ワールドの下請けで、日本大会の主催は「時事新報」。当時はすべて写真審査のみで、現在のように本人が登場して公開審査されることはなかった。日本の美人写真の1位に選ばれたのは、末広ヒロ子さん（当時16歳）で、彼女は翌年行われた世界大会で6位だったという。代表的なミス・コンテストは、ミス・ワールド（英国、初回開催1951年）、ミス・ユニバース（米国、初回開催1952年）、ミス・インターナショナル（日本、初回開催1960年）である。ミス・インターナショナルについては、外務省の外郭団体である国際文化協会が主催をしている。一時、これらの日本大会や国際大会はテレビで放映され、市民社会に影響を与えてきた。通常これらのコンテストは、まず出場者を自薦、他薦で公募する。応募用紙に個人データと写真を添付し提出し、まず書類選考が行われ、出場者が選ばれる。その後公開審査が大きな会場で行われ、テレビなどで放映される。コンテストには「美」を審査する審査員がおり、まった

⁴大阪府堺市で毎年10月に開催されるイベント。メインとして大パレードが行われる。第一回は1974年に開催。

⁵山口彩子(1935年4月3日～2001年2月14日)堺市女性団体協議会第4代委員長。1979年～1990年まで堺市議会議員を務め、1998年5月堺市制110年初の女性副議長となる。

⁶国際連合は1975年を国際婦人年とし、6月から7月にメキシコシティで国連が開催した国際婦人年世界会議では、国際婦人年の目標達成のためにその後10年にわたり国内、国際両面における行動への指針を与える「世界行動計画」が採択された。

⁷1979年の第34回国連総会において採択、1981年に発効。男女の完全な平等の達成に貢献することを目的として、女子に対するあらゆる差別を撤廃することを基本理念とする。

⁸2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標

⁹フランスのパリに本部を置いて世界各地で販売された英字新聞。1887年創刊の『パリ・ヘラルド(Paris Herald)』を前身に持つ。2013年10月15日よりインターナショナル・ニューヨーク・タイムズに改称。

く基準が明確ではない人間の「美」を品評し、ランク付けを行う。バブルの時代には、日本では地区予選が行われ、勝ち残ってきた女性たちが決戦大会で美を競っていた。海外のミス・コンテストは出場者が、すでにプロのモデルや俳優や歌手であり、芸能プロダクションなどにより、ミス・コンテストでの優勝が、プロモーションの一つの手段として利用されているケースが多い。日本においても最近、東京大学を筆頭に、有名国立大学や有名私立大学で、学生の文化祭などでキャンパス・ミス・コンテストが開催されているが、大手の広告代理店が介入しており、有名大学出身の美人として芸能界にデビューさせる登竜門的なケースも増えてきている。

通常ミス・コンテストは、選ばれた1人の女王と準ミス女王2人が、賞金や商品をもらい、たいていは1年間の契約で、町の広告・宣伝や親善大使的な役割を与えられる。

2.2 3382 市町村のミス・コンテストの実態調査から

1989年の秋に行った堺市女性団体協議会の全国の3382自治体に向けての実態調査は、回収数は2074自治体61.3%。そのうちミス・コンテストを実施していると回答したのは482自治体で、23.2%。1位は北海道で31自治体。2位は東京都で23自治体。3位は長崎県で20自治体。年齢制限については有りとは回答している自治体が399で、82.8%。そのうち18歳から25歳としているのが41%。18歳以上として上限を設けていないのが29%。

いずれも理由は、「未婚の女性が多い年代」「一般論として30歳以上は、ミスとしてふさわしくないとされる」「ミス東京の応募要領に準じている」というものが多かった。また「ミス・コンテスト」のイベントタイトルは、ミス〇〇が80%、〇〇女王が8%、〇〇娘が5%、姫・ギャル他が4%であった。未婚と既婚を区分する理由として「ミス・コンテストだから」「清らかさというイメージ」「清潔さと若さをPRするコンテストだから」「各種イベントに参加しやすい」「既婚者は選出後の活動が家庭に制約され制限があるから」というもの。応募時の写真については必要とするが、61.2%、不要が27.2%。必要とするう

ち、顔と全身の写真が必要としているのが27.6%である。写真を必要とする理由としては、書類選考のためという回答が多く、容姿確認を行っていることがうかがえる。またプロポーションの記入については、身長20.7%、体重12.8%、バスト9.7%、ウエスト9.3%、ヒップ8.9%で、スリーサイズを記入させる理由については無回答の自治体が90%であった。「書類選考のため、スタイルが良いかどうか確認するため」「ユニフォーム等の作成のため」という回答もあった。審査員は7割が男性。というものであった。

3. 花博のミス・コンテストへの抗議運動について

3.1 ミス・フラワークィーンページェント EXPO'90 について

市女性団体協議会は、1990年4月1日から9月30日までの半年間、大阪の鶴見緑地の万博跡地で開催された「国際花と緑の博覧会」において行われた「ミス・フラワークィーンページェント EXPO'90」に抗議運動を行った。「ミス・フラワークィーンページェント EXPO'90」は、朝日放送創立40周年記念国際花と緑の博覧会協賛として行われた。主催は、朝日放送。後援は、外務省、農林水産省、通産省、建設省、大阪府、大阪市、財団法人国際花と緑の博覧会協会、朝日新聞社。期間は4月5日から4月15日までとされた。大会実施要項によると、内容は、「世界30数か国の代表選出大会で選ばれたミス・フラワークィーン各国代表1名を日本に招待して、国際花と緑の博覧会会場、ならびに会場外で、ミス・フラワークィーン選出世界大会及び関連行事を華やかに行う。大会に参加する各国代表には、それぞれお国自慢の衣裳、民族衣裳などを着用してもらい、国際花と緑の博覧会の雰囲気をもっと一層盛り上げて、国際親善と友好の輪を広げたいと考えている。」とされている。

さらに、ミス・フラワークィーン選出世界大会は、4月14日の18時30分から、30数か国の中からミス・フラワークィーン1名と準ミス・フラワークィーン2名を選出した。

審査基準も明記されており、「容貌、プロポーション、知性、教養、人柄などを総合して審査する。」とある。賞金は、ミス・フラワークィーンが500万円。

準ミスは各 150 万円。さらに選出後の、ミス・準ミスの女性たちの仕事は、4 月 15 日から 5 月 14 日までの 1 カ月で、「義務と意義」として、『「花の万博」のシンボルとして、関係各省庁の訪問をはじめ、地元・大阪府庁、大阪市役所、国際花と緑の博覧会協会、自国の在日大使館などに挨拶すると共に、国際花と緑の博覧会協会、パビリオン、展示参加をはじめとする各国、各団体、各企業の諸行事、諸企画及びテレビ・ラジオなどに出席、出演することにより、潤いのある平和な豊かな社会の創造と、国際親善、友好に寄与する。』としている。

この時のミス・フラワーQueen日本代表に関しては、前年の 10 月 12 日にザ・シンフォニーホールで開催された「'90 ミス・ユニバース日本代表選出大会」でミスに選出された人が同時に選出されることになっていた。

ちなみにこの際の賞金はミスが 200 万円、準ミスが 100 万円である。なお、「'90 ミス・ユニバース日本代表選出大会」は、日本全国 8 地区（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州）から選ばれた各地区代表 24 名（各地区 3 名）によって競われた、とされている。

3.2 堺市女性団体協議会の「ミス・フラワーQueen ページェント EXPO'90」への抗議運動について

3.2-1 抗議運動の概要

抗議運動は 1989 年、つまり花博の前年の 6 月 7 日付の新聞報道に始まる。正式に団体としてこのイベントに抗議を決定したのは 1989 年の 11 月 10 日の、堺市女性団体協議会の最高議決機関である会長会議においてである。

抗議の視点としては、1、ミス・コンテストの事業そのものが女性の人権を侵害していること。2、当事業の後援団体として、外務省、農林水産省、大阪府、大阪市、財団法人花と緑の博覧会協会という公的機関が名を連ねており、国民、府民、市民の税金によって、このような女性の人権侵害事業に加担することが不適切であること。以上の点から、主催者である朝日放送、やすべての後援団体に対し抗議文と公開質問状を送り、回答について検証し、電話で担当者とも話し合った上で、正式に女性団体として抗議

運動を行うことを決定した。直接行動として、花博の会場に約 200 名で抗議運動を行いに出向き、スマートな抗議運動は約 100 社以上のマスコミの取材を受け、全国にミスコン反対運動が知られ、賛否両論の論議を喚起した。さらに堺市において、ミス・コンテストの女性差別性を学習し、2 千人規模の抗議集会を 2 回行った。また、国連の女子差別撤廃委員会や人権委員会にも、ミス・コンテストが女性への人権侵害であることの訴状を提出した。さらに全国 3382 市町村に向けて、ミス・コンテストの実施実態についてアンケート調査を行い、「ミス・コンテスト NON! ～全国 3382 市町村ミス・ミスコンテスト実態調査資料～ わたしたちはなぜミス・コンテストに反対するか～すべての女は美しい」と題した本編 122 頁、アンケート実態調査資料 157 頁の冊子をまとめ、出版した。（1989 年 12 月 18 日）

3.2-2 抗議運動の経緯

抗議運動の詳細を簡潔に整理すると、1989.6.7 6 月 7 日付の新聞報道に「ミスはお口もお上手!？」という見出しの記事で、花博で「ミス・フラワーQueen ページェント EXPO'90」が行われることを知る。その日に大阪府庁に問い合わせをし、電話は府庁の総務課から（財）花博協会の広報担当に回され、話を聞いた。話の要点は、「今回のミス・コンテストは朝日放送から持ち込まれたもので、ちょうど春休みが終わる時期に、来場者数が減るのを防ぐために、華やかな催しをするということになった。このミス・フラワーQueen ページェントで選ばれた女王を花博にプレゼントしてもらおう。」ということであった。堺市女性団体は「女性は人間であり、プレゼントするようなモノではない」と抗議した。

1989.6.8 堺市女性団体協議会の本部運営委員会において新聞報道と電話で問い合わせた内容を報告。抗議体制を固めた。

1989.6.22 東京水道橋会館で開催された「宇野首相の売買春に怒る女たちの緊急集会」に出席し、参加者に本件を報告し、協力要請を行った。

筆者は、この日までに米国のメリーランド州で開催されていた全米女性学会に出席していた。その場においても宇野首相問題とミス・コンテストの問題を

同学会の出席者である女性学者やアクティビストに伝えた。

1989.10.12 朝日放送主催の「ミス・ユニバース日本大会」と「ミス・フラワーQueen日本代表選出大会」が行われ、それぞれミス1名、準ミス2名が選出された。この日朝日放送への抗議の電話を入れた。

1989.11.10 堺市女性団体協議会の最高議決機関である定例協議会において「ミス・フラワーQueenページェント EXPO'90」に抗議することを満場一致で決議した。

1989.11.18 抗議文（資料1）および公開質問状（資料2）を朝日放送、（財）花博協会、外務省、建設省、農林水産省、通産省、大阪府、大阪市、朝日新聞社へ内容証明で発送。いずれも11月28日期限内で処分回答を要請していた。同日、米国のミス・コンテストの反対運動やメディア・ウォッチ¹⁰の取り組みを続けている、元トップモデルのアン・サイモンソンさんを招請し、山口彩子堺市女性団体協議会委員長らと「ミス・コンテストNON!」の特別講演会を堺市立女性センターにて開催。400人が参加した。男性参加者同士の討論も活発に行われた。

1989.11.20 国連女子差別撤廃委員会に、世界的にミス・コンテストの廃止を求める訴状を提出。この間に、日本国内において抗議に賛同するグループや個人を募った。

1989.11.28 （財）花博協会の総務課長から電話があり、関係省庁との相談のため回答が遅れると連絡してきた。その書面通知を要請した。同日、超特急郵便にて朝日新聞社から回答書が届いた。

1989.11.29 主催者である朝日放送より書留速達で回答書（資料3）が届く。

1989.11.30 （財）花博協会より、簡易書留で、回答がおくれるという通知が届く。

1989.12.3 大阪府の岸 昌知事より、回答書が届く。（11月27日付普通郵便）

この際、大阪府の「ミス・フラワーQueenページェント EXPO'90」への大阪府の後援取り消しを通知してきた。

¹⁰ 新聞やテレビなどのメディアにおいて差別的表現がないかを監視。

1989.2.10 大阪市、外務省、建設省、農林水産省、通産省へ再度抗議文を発送。12月15日期限内で回答を要請した。また同日、あらためて再度、朝日放送、朝日新聞社に抗議文を発送、12月16日期限内で回答を要請。また公開質問状への回答がないため、その回答も要請した。同日、国連人権委員会に、国際的にミス・コンテストの廃止を呼びかけるよう要請状を提出した。

1989.12.18 「ミス・コンテストNON! 全国緊急抗議集会」を2000人の参加者を得て堺市民会館大ホールにて開催した。

1990.4.14 花博の会場に堺市女性団体協議会のメンバー150人と全国から集まった賛同者らと計200人でパフォーマンスの抗議を行った。当然入場料を支払い、メイン会場に向かったが、待ち受けていたのは機動隊だった。

さらに100人を超える報道陣。

そこで男女とも全員が、いわゆるミス・コンテストの女王のいでたち。王冠をかぶり、サテンのマント。歌手はアンチ・ミスコンの歌を歌い、熟女は健康体操、会場を往来する外国客や日本の若い女性たちも、笑顔で賛同していた。堺市女性団体協議会のメンバーは最初から、もみ合いになるような暴力的な抗議運動をするつもりもなく、大声で叫ぶつもりもない、またミス・コンテストに出場している女性たちを敵対視もせず、むしろ彼女らが傷つかないように気遣う運動を心がけていた。

主催者が、あくまでも女性の人権侵害ではなく国際親善事業であると開き直るがゆえの直接行動だった。ここでの抗議運動が、多くのマスコミに取り上げられ、日本全国にミス・コンテストの論議が広がった。この抗議運動について、産経新聞社は翌日の朝刊の社会面で、「すべての女性が美しい」という堺市女性団体協議会のこの抗議運動のスローガンを見出しとして、この抗議運動が、水着審査を非公開とした花博の「ミス・フラワーQueenページェント EXPO'90」の主催者の及び腰に比べて、出場する女性を傷つけないとして、イベントが始まる午後7時までには引き上げたことを、スマートな抗議として評価している。

1990.9.14 「ミス・コンテストNON! 国際抗議集会

を堺市民会館大ホールで開催。2000人の参加者が集った。当集会はプログラムが2部あり、1部では、男性グループのパロディー演劇「花博のオス・インターナショナル・コンテスト」、2部は、アンチ・ミス・コンテスト国際シンポジウム。テーマは「ミス・コンテストのこれが女性差別だ!」。このシンポジウムのスピーカーは、ヘマ・グナティラケ (Hema Goonatilake、スリランカ ケラニア大学教員、アジア女性研究・行動ネットワーク AWRAN 主宰)、キャロル・ハーグレイヴス (Carole Hargraves、アートコーディネーター) は、元ハリウッドのファッション界のトップモデルだった。一時は「君の美は世界の宝」と金持ちの男たちに絶賛され、一時期自分は年を取らないと信じ込んでいたが、フェミニズムに目覚め、飢餓や侵略問題、政治、教育、文化活動を行うようになった。(集会プログラムのプロフィールより)、姜 尚中 (当時、国際基督教大学准教授)、そして山口彩子 (堺市女性団体協議会委員長) 等であった。

3.2-3 抗議運動の結果、自治体主催のミス・コンテストの廃止が相次ぐ

花博の「ミス・フラワーQueenページェント EXPO'90」への抗議運動は、それまでわが国にあふれていたミス・コンテストのうち自治体などの公的機関が主催するミス・コンテストが相次いで、廃止された。これは、この「ミス・フラワーQueenページェント EXPO'90」について、大阪府が後援を取り消したことの影響によるものが大きいと考えられる。また、35か国の代表が参加する予定の当ページェントに、ニュージーランドが「コンテストは女性を卑しめる」という理由で出場を取り消したことの影響もあると考えられる。ちなみに堺市はニュージーランドの首都であるウェリントン市と姉妹都市提携を結んでおり、当時、山口彩子堺市女性団体協議会委員長は、堺ウェリントン協会の副会長でもあり、ウェリントン市との交流を深めていた。

さらに、ニュージーランドは世界で最初に女性が参政権を獲得した国であることからすれば、堺市女性団体協議会が大きな反対運動を起こしていることが、ニュージーランド政府を動かした一つの理由で

あるかもしれないと容易に推測はできる。

この抗議運動の後、いち早く自治体主催のまつりなどでのミス・コンテストを市が自主的に「女性蔑視のイベントである」として中止や廃止したのは、神戸市である。その後大阪市、枚方市、長崎市、名古屋市、埼玉県桶川市などが中止している。その後、少なくとも、自治体などの公的機関が公金を使ってミス・コンテストを主催しにくくなったと言える。

4. ミス・コンテストは女性への人権侵害

女性限定で美の審査をするミス・コンテスト。

人間の外見や容姿の美を審査員である人間が審美し、ランク付けを行うことがまず可能なのかという疑問がある。

さらに女性に限定されており、ミスであるから未婚の女性。年齢制限は18歳以上25歳未満。なぜそのように限定するのか?という調査の問いに対して7割が「清らかなイメージがあり、女性が一番輝いている時期だから」と回答している。この背景にあるのは、まず女性は容姿が美しいほうが国際親善やまちおこしなどにふさわしい。女性は品定めをされ、選ばれる対象であるという考え方があること。

さらに指摘しなければならないのは、これらのミス・コンテストの応募資格には明記されていないものの、人種、国籍、障害の有無、配偶者の有無、健康であるかどうかなど、逆に多くの人々を排除しているイベントであり、それは女性に限らず多くの人を差別しているイベントであるということである。筆者自身が堺市女性団体協議会において調査した結果、三大ミス・コンテストであるミス・ユニバース、ミス・インターナショナル、ミス・ワールドのうち、ミス・ユニバースとミス・インターナショナルにおける1975年から1989年までの女王の年齢や容姿、人種をみたところ、女王の獲得年齢へ平均20.4歳と20.2歳。身長は平均169.5cmと169.6cm。体重は平均53.2kgと53.7kg。ヘアスタイルはロングが双方とも90%。人種をみると初めて黒人女性がミス・アメリカの女王に選ばれたのが1984年。ほぼ9割以上が白人系の女王である。

男性優位社会の中で、あくまでも女性を男性の視点や規範で女性を選別する中に、暗黙の人種差別が

根強く横たわっていたことがわかる。国際親善やまちの活性化などで、若い未婚の女性の美を審査すること自体が、女性の美を勝手な基準で規格化し、性の商品化として価値づける行為は、人権の視点から見れば、明らかに性差別であることが理解できるはずである。このような女性に対する価値観を攪拌する「ミス・コンテスト」は現社会に根強くはびこる男女の賃金格差、男女の役割の固定、女性の非生産労働の過重負担、女性への暴力や性暴力、あるいは女性の教育や保健衛生へのアクセスのしにくさ、貧困、また性風俗、売買春などに巻き込まれる現状など、あらゆる女性への人権侵害を象徴し、容認の方向へ向かわせるものである。なぜならば、堺市女性団体が抗議運動を行ったときに、主催者は「国際親善に寄与する事業」であると開き直すだけで、国際親善の役割がなぜ若く美しい女性に限定されるのかという問いには一切回答できなかつたのである。現社会が実質的な男女平等社会であるならば、逆を想像すれば明白である。逆は今のところあり得ない。

堺市女性団体協議会は、その反対運動の中で、出場する女性たちを全く批判しなかつた。そのことを問う人々もいた。出場する女性たちを再教育すればよい、という問いである。

実際にパロディーとして、堺市においてオス・コンテストを実施してみて、筆者自身が理解していたかと思っていられなくても衝撃を受けた。いかに男性が半裸で、女性の審査員に審査されることの惨めさ、寒々しさ。いかに自分を含む私たち女性が、女性の半裸や全裸を見慣れ、また男性にとっての女性らしさ、色気、美しさという選ばれるための男性視線を、女性自らに内在化していたか。24時間オープンしているコンビニエンス・ストアで堂々と売られるポルノ雑誌。こんな国は世界でも例がない。その国で10歳に満たない幼女が強姦され殺され、92歳の女性もが強姦される。町に行けば、家庭や学校から排除された少女たちがJKビジネスに身を置き、性風俗に巻き込まれる。児童ポルノ生産世界一といわれるこの国で、行われているミス・コンテストが意味するのは、何か。それに出場する女性を非難することができるだろうか。売買春についても、買う男たちは言う。「売る女がいるからだ、文句があるなら売る

女に売らせなければいい。」と。

ミス・コンテストは、いまさら学歴のある女性や、芸能界への登竜門というような意義を後付けしても、根本的には女性の品評会であることに変わりがないのである。筆者が1992年に朝日放送の朝まで生テレビに出演した際、故大島渚監督や作家の野坂昭如さんは、「ミス・コンテストは女性をばかにしている。ドッグレースのほうがまだ。」と発言された。しかし、社会的に経済力も地位も権力も持てない女性たちは、抗うよりも作り笑顔で乗り越える術しかない人が圧倒的多数である。その現状を誰がとがめることができるだろうか。

ミス・コンテストの女王に選ばれても、働く任期はたいてい1年ほどである。失礼な話である。

堺市女性団体の反対運動は決して「人間の美」や「女性の美」を否定しているのではない。

女性も男性も性的マイノリティーの人々も、障害者も高齢者も、すべての人種、すべての人々が、お互いの多様性と文化を認め合い、お互いの美や体形の違いも認め合うことこそが、持続可能な開発目標、SDGsの理念である、

「誰ひとり置き去りにしない社会」を実現する第一歩であるはずだ。

その観点からすると、画一化された美、すなわち封建時代よろしく、男性にとって都合の良い女性像を押し付ける「ミス・コンテスト」はもう時代遅れというようなレベルを超え、明らかな女性への人権侵害のイベントである。

三大ミス・コンテストにしても、わが国の自治体などのミス・コンテストやそれに準ずる〇〇大使など名前を変えても応募者が激減しており、行政職員が女子短大などに頼み込んでなんとか人数を揃えるという苦勞をしていると聞く。そこまでして誰のために、何のためにとりあえず若い女性を選び、並べて添え物扱いをしたいのか。よく考察して見直す必要がある。

このような目線で、女性が視られ扱われている限り、女性の地位は向上せず、女性活躍推進法も遂行されないと考える。女性が男性の性を喜ばせるための対象物であり、子を産む器械というような考え方が、すべての男女格差の根底にある以上、ミス・コ

ンテストはそれらの象徴的なイベントであると言わざるを得ない。すべての人がありのままの自分や他者を認め合える社会は、すべての人がそれぞれに美しいと認め合える社会である。

参考文献

・「ミス・コンテストNON! =全国3382市町村ミス・コンテスト実態調査資料=すべての女性は美しい」(堺市女性団体協議会編、1989、堺市女性団体協議会)

・「美人論」(井上章一、1991、(株)リプロポート)

・「女ざらい ニッポンのミソジニー」(上野千鶴子、2010、(株)紀伊國屋書店)

・「メディアがつくるジェンダー 日独の男女・家族像を読みとく」(村松泰子、ヒラリア・ゴスマン編、1998、新曜社)

・「女性とメディア」(月刊『創』1月号、1989、創出版)

・「堺市議会議員 山口彩子の政治」(堺女性政治連盟、1991、日本女性政治研究センター)

・「広告は私たちに微笑みかける死体」(オリビエーロ・トスカーニ 岡本麻理恵訳、1997、紀伊國屋書店)

「ボディー・ポリティクス」(M.ジャコーバス EF.ケラー S. シャトルワース編 田間泰子 美馬達哉 山本祥子 監訳、2003、世界思想社)

・「美の陰謀 女たちの見えない敵」(ナオミ・ウルフ 曾田和子訳、1994、(株)ティービーエス・ブリタニカ)

・「女の民族誌 そのけがれと神秘」(瀬川清子、1988、東京書籍株式会社)

(Received:September 30,2017)

(Issued in internet Edition:November 1,2017)

資料 1

花博「ミス・フラワーQueenページェントEXPO'90」

開催中止を要求する抗議書

「国連女性の10年」がもたらした地球規模の「女性の地位向上」および「男女平等社会の実現」の提唱は、女性差別撤廃条約に具現化され、1995年わが国においても批准されました。

国内的には男女雇用機会均等法、国籍法の改正など法の整備をはじめ、女性問題行動計画が政府及び地方自治体においても推進されているところです。全国的にも各地法行政や民間団体による女性の人権啓発活動としての女性学講座、生涯学習プログラムへの積極的取り組みにより、女性の社会参加はすすみ、生き方も意識も多様化してきました。

このような今日の下で、国際的イベント「国際花と緑の博覧会」で朝日放送主催による「ミス・フラワーQueenページェントEXPO'90」が、来春大阪の鶴見緑地の博覧開催事会場で開催されることが決定されました。

ここでは、世界30数カ国からミス・フラワーQueen各国代表を招き、ミス・フラワーQueen1名と準ミス・フラワーQueen2名が選出される予定です。この大会を外務省・農林水産省・通産省・建設省・大阪府・大阪市・(財)国際花と緑の博覧会協会・朝日新聞社が後援しています。

ミス・コンテストは女性を品評の対象として「美と健康と知性」をうたい、競わせるものです。「美」という人それぞれの固有の価値を勝手なしかも非常に画一的な基準によって審査が行われているのです。身長や顔かたち、肌の色や形状、プロポーションといった本人の意思や努力ではどうにもならないことについて、優劣や順位をつけることは明らかに人権侵害であり、差別そのものです。

また対象を女性に限り、しかも年齢が制限されることによって、募集の段階ですでにある一定の年齢以上の女性や障害者、病気の人や在日外国人は排斥され、同じ女性であっても分断されるのです。さらにショー自体年々豪華になり、公開審査で大勢の人々の前で水着をはじめとし何回も衣替えをすることは、女性のからだの「見せ物」化にほかなりません。

花博のシンボルとしてミス・フラワーQueenが選ばれること自体が女性の「モノ」化であり、この考え方は女性を一元的な観賞用とする封建的男社会の遺物です。女性をこのように扱うことは女性への差別行為であり、本質的には障害者差別をはじめ、すべての差別につながります。ミス・コンテストはいかに美辞麗句で飾られ、巧妙に行われようとも、女性差別撤廃条約に抵触し、日本国憲法に違反しています。

このような差別行為の主催者であり、マス・メディアの一つとして社会的影響力をもつ朝日放送が、この企画を即刻中止することをわたしたちは要求します。

また「女性の地位向上」をかかげながら、このミス・コンテストを後援する、われわれの税金でまかなわれているはずの外務省、農林水産省、通産省、建設省、大阪府、大阪市と(財)国際花と緑の博覧会協会はただちに、後援団体を辞退すると同時に、廃止を要求することを強く訴えます。

さらに今後、いっさいのミス・コンテストおよびこれに類することが廃止されることを要求し、抗議にかえます。

資料2 =主催者への公開質問状=

貴社朝日放送が主催する

「花博 ミス・フラワークイーンページェントEXPO'90」と

「ミス・ユニバース」に関する

公開質問状

貴社が主催する「ミス・フラワークイーンページェントEXPO'90」と「ミス・ユニバース」について下記の質問にご回答下さいませよう、お願い申し上げます。

- 1、貴社がミス・コンテストを企画、実施する目的は何ですか。
- 2、ミス・コンテストの企画及び実施を担当する組織機関はどこですか。
 - A. またその組織機構はどうなっていますか。
 - B. スタッフの人数は何人ですか。(男性 人 女性 人)
 - C. ミス・コンテストの企画の責任者名と職責をお示ください。
- 3、貴社がはじめて「ミス・ユニバース」を企画したのはいつですか。
- 4、貴社がはじめて「ミス・ユニバース」をテレビ放映したのはいつですか。
- 5、「ミス・ユニバース」、「ミス・フラワークイーンページェント」の対象を女性に限る理由は何ですか。
- 6、「ミス・ユニバース」、「ミス・フラワークイーンページェント」の対象を未婚（ミス）に限る理由は何ですか。
- 7、身長が158cm以上でないと応募できない理由は何ですか。
- 8、応募時に、顔写真と全身写真を必要とする理由は何ですか。
- 9、書類選考時にバスト・ウエスト・ヒップのサイズや体重を書かせる理由は何ですか。
- 10、書類選考時に何を基準に審査をするのですか。
* 具体的にどんな「美」の基準、「容貌」の基準、「知性と教養」の基準、「人柄」の基準があるのかお教えてください。
- 11、「ミス・ユニバース」と「ミス・フラワークイーンページェント」の書類選考及び公開審査にかかわる審査員の人数と姓名、職業をお教えてください。(それぞれ性別を明記してください)
- 12、審査員を決定し、依頼をするのは誰ですか。
- 13、審査員は何の権利をもって審査を行いますか。
- 14、審査員への報酬はどのくらいですか。
- 15、「ミス・ユニバース」と「ミス・フラワークイーンページェント」のスポンサーとなる企業はどこですか。(それぞれの会社名を明記してください)
- 16、これらのイベントにかかる総経費はいくらですか。
- 17、貴社は女性差別撤廃条約を知っていますか。
- 18、貴社は社内で「人権問題」の研修をしていますか。
* しているとすれば、どんなテーマで、何回、参加者数を詳細に明記ください。
* していないならば、なぜしないのかその理由は何ですか。
- 19、貴社は社内で「女性問題」の研修をしていますか。
* しているとすれば、どんなテーマで、何回、参加者数を詳細に明記ください。
* していないならば、なぜしないのかその理由をお示ください。
- 20、貴社は報道番組や、娯楽番組の中で、女性に対する人権侵害をおこなっていませんか。
* おこなっているならば、その具体的内容を明記ください。またそれについて貴社はどのような責任をとっていますか。
- 21、貴社はミス・コンテストが重大な女性差別であるという認識をもっていますか。
- 22、貴社はミス・コンテストが女性差別撤廃条約に抵触し、しかも日本国憲法に違反することを知っていますか。
- 23、貴社は「ミス・ユニバース」等のコンテストについて今後どうしますか。

資料 3

＝朝日放送＝

拝復 貴方よりの平成元年 11 月 18 日付書面に対し、次の通り当方の見解を申し述べます。

貴方御指摘の通り、近年は各地で多くのミスコンテストが開催され、各種の論議を囀っているところでありますが、要は主催する側の意識の持ち方、つまりコンテストのあり方、趣旨目的にあると考えております。ご承知の通り、当方は従来の「ミス・ユニバース日本代表選出大会」に加えて来年度は国際花と緑の博覧会の開催に合わせて、「ミス・フラワーウィーンページェント EXPO'90」を主催することにしております。

この催しは単に日本代表を選出するだけでなく、選出された方々は、日本代表として世界各国の代表の方々と一同に集まり、国際的理解と友好親善を深めると共に、その後も日本代表または世界代表として各種のイベントを通じ、各国との国際親善に努めるべき役割を担っているわけであり、その為、同ページェントで求められるものは、単に容貌・容姿のみならず、国際交流の場における親善使節としてふさわしい知性と教養を身につけていることにあるわけであり、

換言すれば、一個の完成された人格者としての価値に重きを置いているのであり、単に美しい物としてこれを選出するものでは決してありません。従いまして、当ページェントが女性蔑視あるいは性を売り物にする類のものでは無いと確信しております。しかしながら、御指摘の点につきましては、貴重な御意見として今後の企画運営の参考にさせていただく所存であります。

右御返答申し上げます。

貴団体の 1989 年 11 月 18 日付書面にたいする小社の回答は別紙の通りですが、この件につきましては大阪本社企画部が窓口になっております。念のため申し添えます。

大阪府堺市宿院町東 4 丁 1 の 27

堺市女性団体連絡協議会
委員長 山口 彩子殿
全国抗議団体一同殿

平成元年 11 月 28 日
大阪府大阪市北区大淀南 2 丁目 2 番
朝日放送株式会社事業本部
事業部長 関宮 康雄